

コロラド大学の専門家を招いたTA制度に関する国際フォーラム等を開催しました

戴容秦思（TAサポートデスク特任助教）

TA制度の運用はすでに多くの大学で実施されており、研修の機会も提供されており、継続的な制度改革も進められています。本学におきましても、スーパーグローバル大学創成支援事業の取組としてTAを三階層にわけ、それぞれの役割の明確化と各階層に適した研修の機会を提供するHirodai TA制度への改編を行いました。しかし、TAが教員と共に正課の教育活動に関わるためには、両者がどのような情報を共有するのか、TAはどのような支援能力や科目に関する専門知識を有する必要があるか、誰がどう育成するのか、教育の質向上につながっていることを世間一般、文部科学省、関係者、学生、保護者などに対してどう示すのか、等、試行錯誤の部分が多く、これら諸課題について十分に議論されているとは言えません。そこで、本学では、平成30年2月26日から3月1日にかけて、アメリカにおけるTA研修制度のモデルになった、コロラド大学ボルダー校Graduate Teacher Program ディレクターのMarcia Yonemoto 教授、リードコーディネーターのPreston Cumming 博士をお招きし、講演および指導助言をいただきました。

26日は、より効果的なTA制度運営およびTA研修に向けて、本学のTA育成の関係教職員、大学院生とともにその課題と対策について検討しました。

27日は、学内外のTA制度に携わる教職員や大学院生等を対象に、国際フォーラム「大学におけるティーチング・アシスタント（TA）制度改革の挑戦～大学・大学院教育の充実にむけて～」を開催し、約70名の参加がありました。本フォーラムは二部構成で、前半ではアメリカにおける先進事例を紹介いただくとともに、広島大学における制度改革の概要と取り組みからの課題について発表しました。後半は参加者間の交流をいっそう実質的なものにするを目的に、各大学の取組及び知見を報告するポスターセッションを開催しました。ポスターセッションにおいては、10の大学から18のポスター報告が行われました。

3月1日は、TA育成担当者や研究者11名が東京（成蹊大学）に集まり、TA導入による教育改善のあり方と意義について、コロラド大学の先進事例を踏まえながら議論しました。

今回の国際フォーラム等を通して、今現在の日本における大学のTA制度改革の動向をより明確に把握することができ、いかに先進事例から学び、いかに適用していくかを考える機会となりました。また、各大学それぞれのTA制度改革の取組にとっては、取組自体をどう評価するか、構成員の意識改善をどう行っていくかが課題として取り上げられました。これら課題のソリューション、つまり効果的かつ持続的にTA制度による教育改善を取り組んでいくためには、①制度のビジョンとミッションの明確化とともに、②持続可能な財源確保、③破たんしない制度運営体制の保障、④担当者に必要なコンピテンシーとそれらを最大限発揮可能な労働環境の整備、等が鍵となると考えます。



写真1 国際フォーラムの基調講演の様子（コロラド大学の事例）



写真2 国際フォーラムポスターセッションの様子